

2021 年度中 3 卒業式校長挨拶 (2021.3.17)

中学校 3 年生の皆さん、卒業おめでとう。心から祝福します。

通常は、高校生と合同で行う卒業式ですが、新型コロナウイルスの関係で 18 日の卒業式では会場に入りきれないことから、当初中学生については教室で証書を渡す予定でした。ただ、それでは今年一年、コロナ禍で本当に頑張ってきた中三生がかわいそうだとということで、中三組主任の先生方の発案もあり、本日大講堂を借りて、卒業証書だけでも代表に校長から渡してあげてくださいということになりました。

他の学年は終業をやっているのに、中 3 生と中 3 の組主任の先生方中心のこじんまりとした会になりましたが、皆さんが中 1 のときの校長先生だった梶取先生からもお祝いの言葉をいただけるということで嬉しく思っています。

私のほうも、高校生と合同の式ではないので、中学生に絞って話ができること、また堅苦しくなくお話ができることは、かえって良かったと思っています。

私からは、武蔵という 6 年間の教育の折り返しを通過した諸君に、二つのことを問いたいと思います。

一つ目は、この武蔵中学校での 3 年間はどうかだったか。そのことを振り返ってほしいということです。

私は武蔵の過ごし方として、三つのタイプがあると思います。皆さんはどのタイプにあてはまるか。考えてみて下さい。

まず一つ目。充実型。勉強に部活に、とても充実し、のびのびと武蔵生活を送った諸君です。自らの好奇心に火をつけ、自分が好きなこと、楽しいことに熱中し、それを深めた者もいるかもしれません。論語にこういう言葉があります。

「子曰く、之を知る者は之を好むものに如かず。之を好む者は之を楽しむ者に如かず」。つまり、物事をやるには或いは学ぶには、まずは知りたい、次に好きだ、さらに楽しいと思えることが素晴らしんだよということです。知りたい、好きだ、楽しいの言葉をつなげて、よく「知好楽」と言いますが、自分の知りたい、好き、楽しいを見出し、さらに、それが一生の職業に結び付ければこんなに素晴らしいことはありません。ぜひ、充実した武蔵生活を送ることができた人は、さらにそれぞれの進路希望の実現に向けて頑張ってもらいたい。

いと思います。

次に二つ目。悩み苦しみ型。いやなことが多くて悩んだり苦しんだりした諸君。勉強ができなかった。人間関係で苦しかった。自分に自信が持てなかった。親子関係で悩んだ。そういう諸君に私は言いたい。大いに悩め。悩め。悩め。その悩んだことが、必ず未来につながる。昔、こんなコマーシャルがはりました。ソ、ソ、ソクラテスかプラトンか、みんな悩んで大きくなった。そのとおり、みんな悩んで大きくなった。

私もはるか49年前、15歳の武蔵時代に何を悩んでいたのか。思い出してみます。まず、自分の容貌に悩んでいました。かっこ悪いなと思っていました。自分の性格にも悩んでいました。どっちかという人の前にしゃしゃり出てしゃべれない。面白いこともいえない。シャイな性格でした。

勉強も試験一週間前は本当に苦しかった。今思い出しても、武蔵時代の試験勉強はいやだった。でも、ここでしっかりやらないと、あとでつげが回ってくるとやっていった。一度だけ手を抜いたら、悲惨な成績でした。そこでやっぱり頑張ろうと反省したことをよく覚えています。自分の弱さを知り、そこに向き合うことから、すべてが始まると私は思います。

二つ目のタイプの諸君に言いたいことは、とにかく悩め。そして悩んだあとに、自分なりに反省する。中学高校の6年間は、そうした試行錯誤の時間に他ならない。大いに悩め、悩んだことがその分人生の肥やしになる。それを言いたい。

そして第三のタイプ。だらだら型。それは、ボーっとしていたタイプの生徒。なんとなく過ごしてきた。ゲームばかりやって時間をつぶしていた。でも、何かをやったという達成感もない。また苦しんだり悩んだりしたということもない。

ボーっとしていた諸君には、テレビ番組のキャッチコピーではないけれど、ボーっとしているんじゃないよといたい。とにかく何かをやる。何かに挑戦してみる。自分の安全地帯、コンフォートゾーンといいます。そこに留まっていないか。そこを飛び出すことから、人の成長が始まる。

失敗を恐れるな。失敗から学べ。何かをやることによって、さっきの自分の知好楽がわかっていく。ああこれは自分に向いているな。逆に向いてないなど。向いてなければすぐにやめればよい。だから、ボーっとしている時間があったら、何かをやってみるとよい。

たまにはボーっとする時間があってもよい。でも人生ずーっとボーっとしていたら、失われた時間の累積は、何かの目標に向かって常にチャレンジしている人の時間の累積と比べると大きなものになる。生きた時間にしていくことが大事だと思います。

皆さんは、この三つのどのタイプでしたか？実際は、この三つのタイプが一人の中にも交じっているのだと思います。問題は、武蔵の後半3年間、どうすごすか。今、ちょうど6年間という武蔵の階段の踊り場にいる諸君には、今一度自分の頭で考えてもらい、大いに悩み、大いにチャレンジしながら、それぞれの知好楽を追求して行ってほしいと思います。人生は自分の思ったようになっていきます。要は自分でどうしたいかを本気になって考えることだと思います。

そしてもう一つ、中三生諸君に聞きたいことがあります。それは、諸君は自己的人権感覚を磨いているかということです。

人権感覚とは何か。それは人を大切にするという感覚、大切にできているという感覚です。お互い、価値観も違う。色々と意見が対立することもある。喧嘩をすることもあろう。でも、どこか根本のところ、人を大切にしているかということである。その感覚を磨いているかということです。

具体的に言えば、人のいやがることをするな、言うな。人を笑うな。人の痛みを感じる人間になれということです。

というのも、今社会を見回してみると、社会的地位の高い人であっても、あるいは学歴の高い人であっても、こんなこといっちゃうの、あんなことやっちゃうのという例が、あまりにも多すぎるからです。どうして、そんなことを言うてしまうのか、やってしまうのか、その原因はよくわからないけれど、私は、そういう人は、多感な10代の時期に、人の痛みを感じたことがなかったのではないか、人の本当の優しさに触れたことがなかったのではないかと思います。

だからこそ、15歳の君たちには、何をやったらまずいのか、何を言ったらまずいのか、これを言っちゃったらおしまいよ、これをやったらおしまいよという感性をよく磨いてほしい。

皆さんは、黄金律、ゴールデンルールという言葉聞いたことがあるでしょうか。実は、聖書でも仏教でも儒教でもイスラム教でも、大切にされている教えは共通しているということです。それは何かというと、「人にしてもらいたいと思うことをしなさい」ある

いは「人の嫌がることはするな」ということです。だから黄金律、ゴールデンルールと言う。

現実の社会では、実は難しい面もあります。わざとではないけれど、どうしても人を傷つけてしまうこともあるでしょう。でも人を傷つけることの痛みを知っていることは大事なことだと思います。

以上、武蔵の後半戦を見据えて、二つのことを話しました。一つは今この時点で三年間を振り返ってほしいということ、もう一つは人権感覚を磨けという話です。

4月の新高1の入学式については、コロナの関係でやはり収容する人数を制限する関係で実施できないけれども、高校に入って、一回りも二回りも大きく成長していく皆さんに大いに期待しています。

卒業おめでとう。